

年頭のご挨拶

日中友好協会・岡山支部

支部長 宇野武夫



宇野武夫支部長

新年あけましておめでとうございます。

昨年もみなさんのご奮闘で中国語講座、中国料理教室、文化講座、太極拳教室、中国「残留孤児」国賠訴訟の支援（日本語教室を含む）など、多彩な活動を展開することができました。とりわけ、倉敷

465

2006・01・01

頌春

2006年



日中友好協会・倉敷支部

支部長 大森久雄

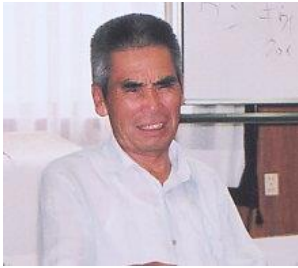
昨年末、倉敷支部ができた。本協会の原則を大切に、一步を踏み出す。

作春、陝西省韓城の司馬遷祠墓に参った。遷 生誕二一五〇年祭の前日だった。

標語は『風追司馬』。遷の遺風を追慕する意だ。

現代中国で史家の先達として、遷が評価されているのはうれしかった。史学と文学を窓口に、日中友好に努力したい。

(二〇〇六・一・一)



高見英夫さん

TRUE STORY

中国残留日本人孤児たちの思い

高等学校社会問題研究会備南地区（倉敷を中心とした岡山県南西部）の高校生たちは、今年（二〇〇五年）の夏、中国残留日本人孤児問題と日中関係について学習しました。



赤沢栄子さん

ビデオ『蒼い記憶』を視聴し、山陽新聞の「落葉帰根」を読んで中国残留日本人孤児が生まれた原因や孤児について基本的な学習をし、総社市在住の3人の中国残留日本人孤児のかたから聞き取りを行いました。その中で、高見

英夫さんは大変悲惨な経験をしてられました。高見さんは、一九三八年両親と兄と英夫さんの4人で満州の竜爪へ開拓団の一員として移住しました。満州で妹と弟が生まれ、高見さんの父は鍛冶職人として働いて

いました。ところが、一九四五年八月九日ソ連の対日参戦により高見さん一家の逃避行の生活が始まりました。途中、妹と弟をかかえての逃避行は無理と判断した一家は、誰かに拾ってもらえばと思いいと弟を置き去りにしました。しかし、妹と弟は動物に食い殺されてしまいました。母は泣き崩れ、この日を境に生気を失っていました。

（次号へ続く）
（高社研備南地区事務局 野崎武彦）

支部ができたことは、ほんとに嬉しいことです。その反面、支部長として何もできていないことをいつも心苦しく思っています。さて、今年には平和憲法を守る（憲法改悪をさせない）ための大事な年になると思います。

戦後、日本は憲法で過去の戦争の間違いを認め、「二度と戦争はしない」と誓ったことで世界に受け入れられました。ところが、小泉首相はその戦後の再出発にあたっての国民の決意（現憲法）を踏みにじり、五度目の靖国参

拝を行ないました。日独伊のおこなった戦争が、犯罪的な侵略戦争であったという共通認識のもとに、戦後の国際秩序は成り立っています。その犯罪的な侵略戦争を「アジア解放の戦争」と正当化し、歴史を歪める靖国神社に、憲法を守るべき一国の総

理が参拝するなど、世界に通用するものではないと思います。そして、昨年末、自民党結党五十周年の党大会で、戦後はじめて新憲法草案なるものを決定しました。不戦の誓いと民主権をうたった憲法

前文を書き換え、9条2項を変えて海外で戦争ができる国にしようとしています。そして、人が生まれながらに当然に有する権利としての「基本的人權」を「個人を超えた全体の利益に従属する権利」という異質な



短信

2月5日（日）に第28回中国料理教室

中国東北部 朝鮮料理に挑戦

講師は鄭京福さん

朝鮮料理は2度目の挑戦です。黒竜江省鉄力市の出身で、大連に長い間住まわれ料理店での経験が長い「鄭 京福」さんを講師に迎えます。

06年2月5日（日）10時開会〜2時

参加費千三百円

大盛況! 05年の大望年会

昨年の望年会(80余名)よりも三倍以上の参加者で、たいへんな賑わいの会となりました。今年も、留・就学生を激励しようとの大きな目標が掲げられました。留・就学生学友会の役員たち大勢も成功のために奮闘しました。県下に数ある大学や語学学校への参加の呼びかけや、参加が増えることを見こして自前の料理づくりなどに力が注がれました。



例年、日中友好協会には、日本ベトナム友好協会やALA(アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会)の人たちなどの参加を得ていましたが、それに加えて留学生たちを日ごろから支援している五団体も参加して大きな協力体制を作りました。

会場は四川料理の専門店「又来軒」を全店借りきり、その上に、高橋社長を先頭に惜しみない協力を得てはじめて出来上がった会でした。集まった人たちは、中国人留・就学生と研修生を合わせて134人、日本人側の出席者は111人にもほり、合わせて250人近い数の大

盛会でした。又来軒の四川料理はもちろん、留学生たちの作る「火鍋」「チャーシュー・手羽先」「朝鮮風サラダ」が用意され、その上に中国帰国者の作った「餃子」1900個がそれに加わってたつぷりのご馳走でした。参加者のお腹は充分満たされたようでした。はじめは留・就学生たちの出番でした。冒頭、国を思っ



ノド自慢の人たちの合唱や、それぞれの出身地のお国言葉によるセリフは、学生たちの大爆笑を買っていました。今度は日本人の出番です。六団体の代表のあいさつに続いて、地元で作られた「桃太郎踊り」や、みんなで踊る「炭坑節」は会場のふんいきをうんと盛り上げました。



竹内理事長がスピーチ

なんと! 250人ももの参加者

十二月十一日 又来軒にて



歌あり「岡山弁」の披露ありで、会場は笑の渦に包まれていました。これからも「岡山は暖かいか?」をテーマに、多彩な交流を通じて友好の輪を拡げていきたいものです。



書評

私のすすめる小さな本・・・ 竹内和夫
木村英樹著 『中国語はじめての一步』

ちくま新書066 ¥660

273ページの小さい本で、表紙カバーの裏に「まったく初心者あなたのために、取っておきの入門クラスを開講」と書いてあります。7章まであって、たしかに第1章プロlogueと第2章世界のなかの中国語までは入門的な知識が、おもしろい話として読むことが出来ます。ただし、初心者といっても、大学生を考

えているようです。英語がよくできます。類型論とか系統論とか、基礎がないと理解できない部分もあります。こんな会話(48ページ) B君:僕の辞書には「信」はあるけど、量詞のことは書いてありません。教師:早急に辞書を買って換えるように。 C君:あった、あった。 “信”には、量詞“封”を使うと書いてあります。 小型の辞書ではダメというところでしょうか。辞書が使えたら一人前と私は思っています。

「3通の手紙」は「三封信」だという説明のところです。 次回の新刊発送作業は 1月11日(水)1時半から 民主会館で行ないます。 前回お手伝いくださいました方々です。

はじめの一步どころか、十歩も五十歩も足を運ぶことにあります。中国語はやさしそうだなと、たかをくくって読むと、途中で投げ出すことになりかねません。 中級以上の人でも、じっくり勉強できます。 第3章は中国語の音。中国音韻学の伝統的な用語が出てきます。 発音ノートからマ

での囲み記事でかなり工夫された説明があり感心します。 子音のgkh舌根音と称するのは国際的ではありません。 いずれにしても発音は、普通話のたしかな話し手から耳と口を使って、ものにする必要があります。 第4章文字、第5章語彙、第6章文法、第7章パ

フォーマンスとつづきますが、著者の留学時代の体験をユーモラスに語るあたりは「なるほど、なるほど」と納得させられます。 索引があると、もっとよ

かったのと思えますが、目次を活用して、なん度も参考にするべき本でしょう。